

ボッシュ、グローバルおよび日本で調査を実施 AI は「今後 10 年で最も影響力のあるテクノロジー」

2025 年 6 月 19 日
C/CGR-JP-2025-10

主な調査結果

- ▶ 「AI」が「今後 10 年で最も影響力のあるテクノロジー」世界で 1 位。
日本では 2 位に「自動運転」と、自動車開発に関わる最新技術が上位に
- ▶ AI スキルの重要性：グローバルの半数以上（56%）が認識、日本では 45% が AI スキルは重要と回答し、特に 18 歳～30 代が最も強く認識
- ▶ 国内外で約半数が AI 台頭による仕事へのリスクを感じるも、
職場での AI 研修習得率は世界で 3 割未満、日本はわずか 1 割という結果に

横浜－グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーであるボッシュの日本法人、ボッシュ株式会社（本社：神奈川県横浜市都筑区、以下 ボッシュ）はこのたび、テクノロジーおよび AI に関する調査結果を発表しました。これは、ボッシュが世界 1 万 1,000 人超を対象に行ったグローバル調査※「Bosch Tech Compass」と同様の調査を、国内の 18 歳から 69 歳の男女約 1,000 人を対象に行ったものです。

※グローバル調査の対象国：ドイツ、フランス、イギリス、米国、ブラジル、中国、インド

その結果、グローバル調査および日本で AI が「今後 10 年で最も影響力があるテクノロジー」として 1 位となり、回答者の半数以上が「AI スキルの重要性」を認識していることが分かりました。また、約半数が「AI の台頭により自身の仕事にリスクを感じている」と回答。一方、「職場で AI に関する研修を受けたことがある人」はグローバルで約 3 割、日本に至っては 1 割と他の国と比べても最下位という結果となりました。

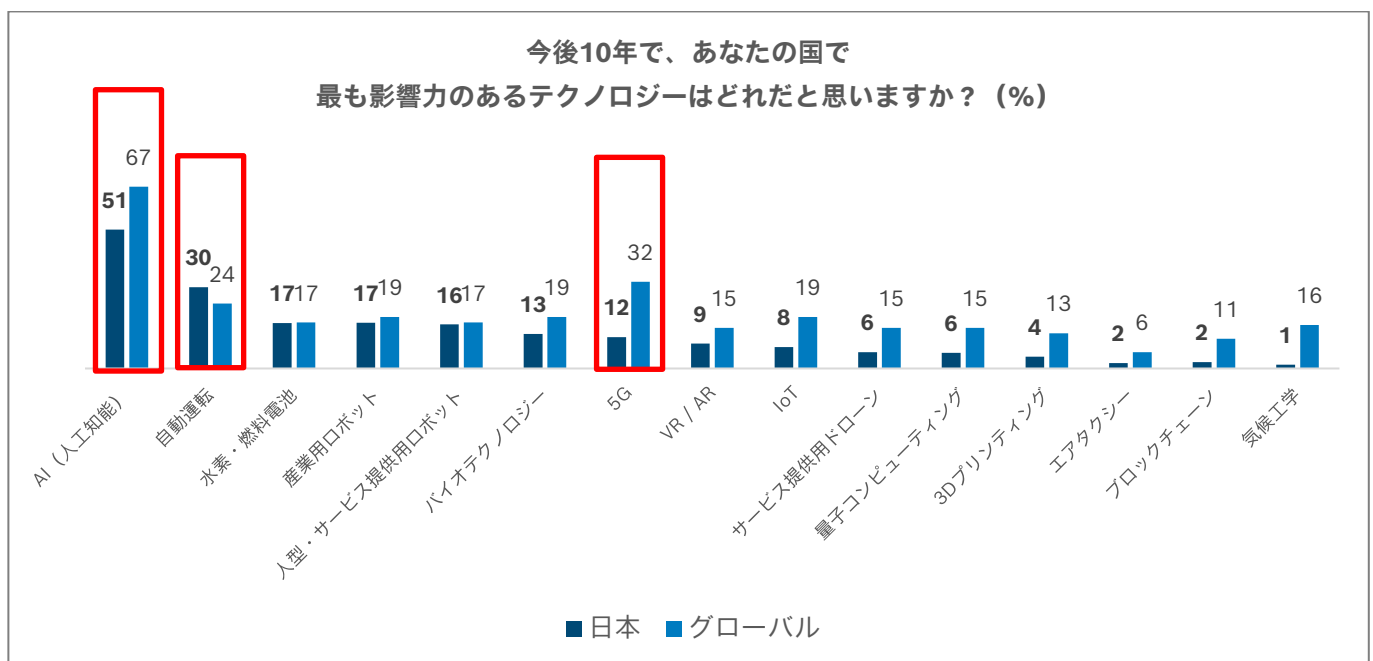
ボッシュ株式会社の代表取締役社長を務めるクリスチャン・メッカーは、次のように述べています。「AI はわたしたちのビジネスに大きなチャンスをもたらします。その可能性を見だし、人々が日々の生活や仕事で活用できるよう促すことも社会全体の課題です。ボッシュでは、すでに自社の製品やソリューションに AI を活用しています。またグローバルではもちろん、日本国内でも工場の製造現場で AI 検視などの活用が進んでいます。さらに全従業員の知識や経験を底上げする

べく、AIに関連した研修の提供や、生成AIツールの提供、AI活用事例を学ぶ社内イベントの実施など、さまざま取り組みを積極的に取り入れています。ポッシュでは今後も、コーポレートスローガンである『Invented for Life』を体現する、人と社会に役立つ革新的なテクノロジーの提供に向け、AIの活用とAI人材の育成に注力していきます。」

本調査の結果は、以下の通りです。なおグローバル調査の結果に、日本は含まれていません。

1. 今後10年で影響力のあるテクノロジー：1位「AI」、日本は2位に「自動運転」

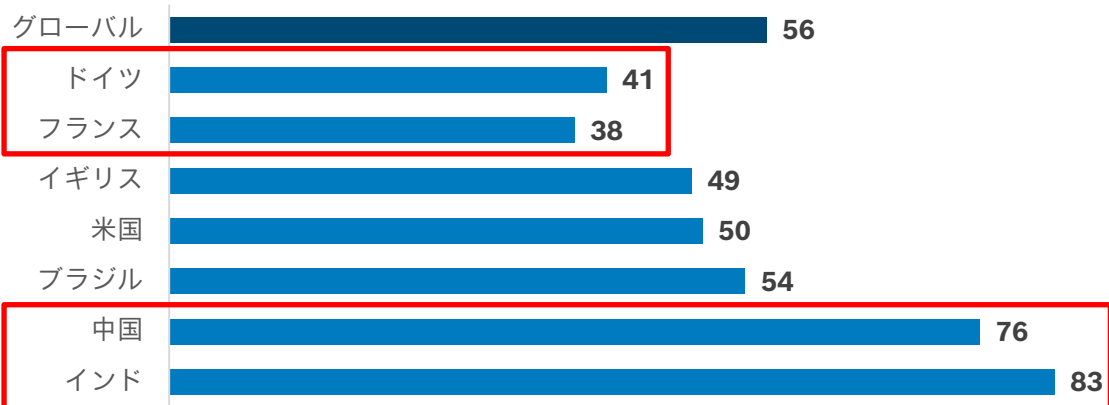
「今後10年で、最も影響力のあるテクノロジー」について3つまで選択してもらったところ、「AI」がグローバル調査（67%）でも日本（51%）でも1位に選ばれました。続いてグローバルでは、回答者の32%が「5Gテクノロジー」、24%が「自動運転」を挙げました。一方、日本では2位に「自動運転（30%）」が選ばれ、自動車開発に関連する「自動運転」が、日本では関心の高いテクノロジーであることが分かりました。



2. グローバルで半数以上がAIスキルの重要性を認識、日本は18歳～30代が意識

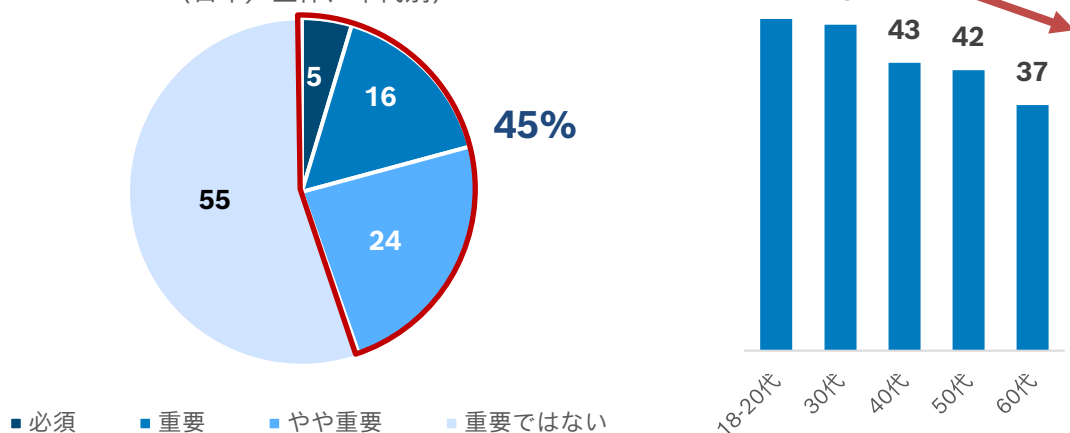
AIスキルの重要性に関する質問では、グローバルでは半数以上（56%）がAIスキルを重要（必須、重要、やや重要）と認識しました。国別に見ると、ドイツ（41%）、フランス（38%）は40%程度に収まる中、対照的にインド（83%）、中国（76%）では多くの人々がAIスキルの重要性を認識しており、国によって大きな差が出る結果となりました。

現在の仕事において、AIのスキルはどの程度重要ですか？（％）
（グローバル調査）



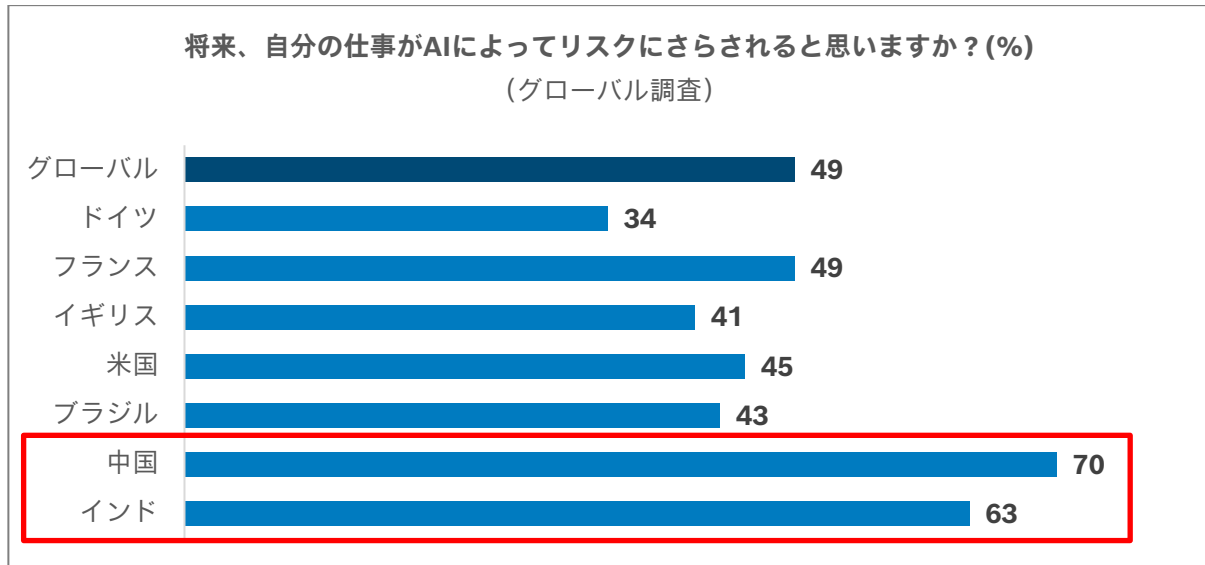
また日本では45％の人が「AI スキルが重要」であると考え、特に18～20代（50％）および30代（49％）では約半数がAIスキルの重要性を認識していました。その後、40代（43％）、50代（42％）、60代（37％）と、**年代が上がるにつれて徐々にその重要性の認識が下がる結果となりました。**

現在の仕事において、AIのスキルはどの程度重要ですか？（％）
（日本／全体、年代別）

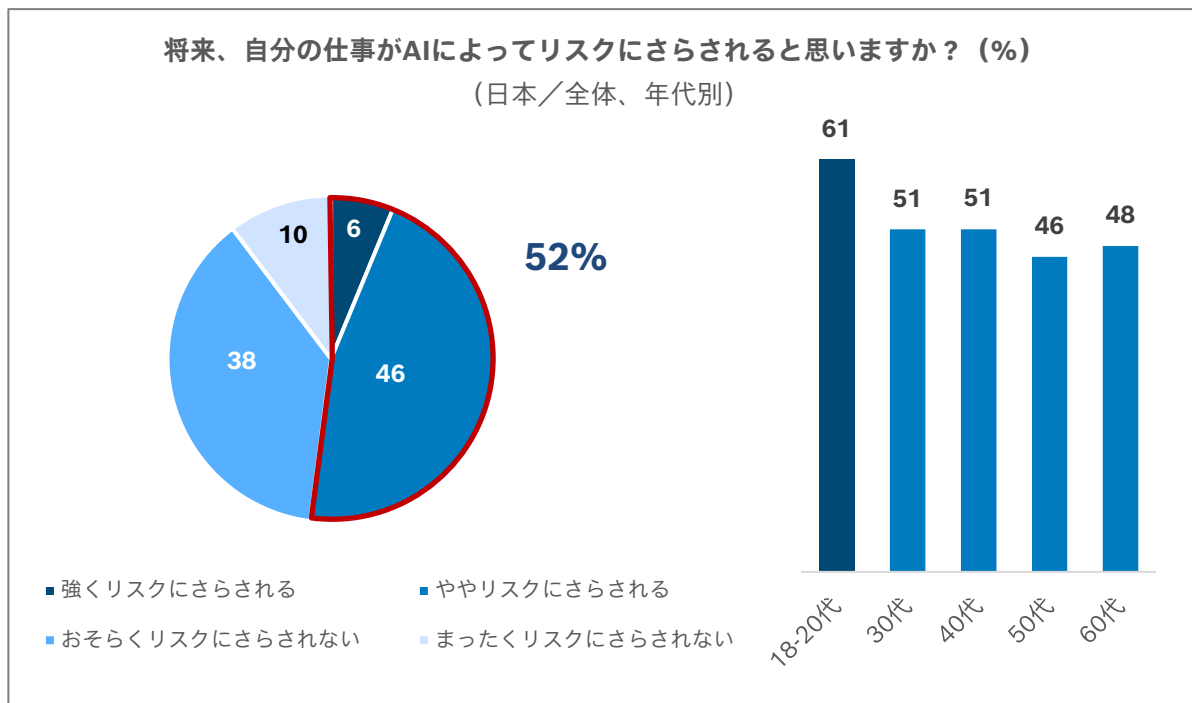


3. グローバルでは約半数がAIで自身の仕事がリスクにさらされると意識するも、各国で大きな差

グローバルでは約半数（49％）が、AIの台頭により、将来自身の仕事がAIによってリスクにさらされると感じていることがわかりました。しかしドイツでは、AIが自分の仕事に対するリスクであると考えている人は約3割（34％）にとどまりました。興味深いことに、前問の「AIスキルの重要性」と同様、中国では7割（70％）、インドでは約6割（63％）が、「AIをリスクだと認識」していました。つまり、「AIスキルの重要性」を認識している中国とインドが、同時に「AIは自分の仕事に対するリスク」であると考えていることが判明しました。



なお日本では、「将来、AI で自分の仕事がリスクにさらされると思うか」という問いに対し、「強くリスクにさらされる」を選択した人は6%、「ややリスクにさらされる」を選択した人は46%となりました。つまり日本では「AI は自分の仕事に対するリスク」だと認識している回答者の合計は、グローバル調査の平均より3ポイント高い52%でした。また特にリスクを感じているのは18～20代で6割（61%）が最も高い結果となりました。

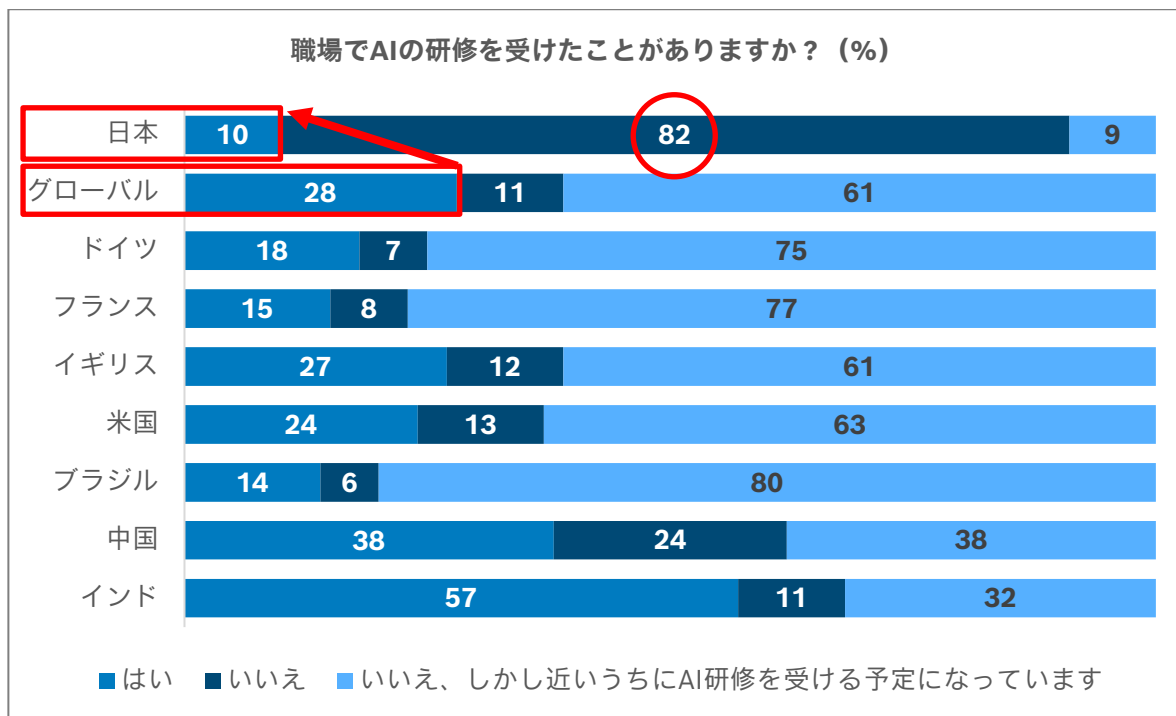


4. 職場の AI 研修 : 世界で 3 割未満も国別に大きな差、日本はわずか 1 割

前問の調査結果の通り、グローバルでは約半数（49%）が AI によって自分の仕事がリスクにさらされると考えているにも関わらず、「職場で AI の研修を受けたことがありますか？」という質問に対して「はい」と答えた人はわずか 3 割未満（28%）となりました。グローバル調査で最も多かった回答は「いいえ、しか

し近いうちに AI 研修を受ける予定になっています」の 61%で、「いいえ」と回答した人は 11%でした。職場で AI に関する研修を受けている人の割合はインド（57%）が突出しており、2 位の中国（38%）と比べても 19 ポイントも差がありました。このように国別に比較すると、職場における AI 研修の提供には大きな差があり、ドイツ（18%）、フランス（15%）、ブラジル（14%）では職場での AI 研修を受けたことがある回答者は 20%以下という結果でした。

しかし日本に至っては「職場で AI の研修を受けたことがある」と回答した人が **わずか 1 割（10%）**と、グローバル調査の結果と比較すると最も低い結果でした。反対に職場で研修を受けたことがないと回答した人が 82%と最も高い結果となりました。グローバル調査の結果と比較しても、日本では AI 研修の受講経験者が圧倒的に少ないことが分かりました。



グローバル調査「Bosch Tech Compass」に対し、ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会メンバーのタニア・リュッカートは次のように述べています。「仕事を進める上では、仕事に不可欠で、かつ補完的なスキルになるであろう AI に、向き合う必要があります。生成 AI は、学習や仕事、コラボレーションの方法に影響を与え、企業のワークフローやプロセスに大きな変化をもたらすでしょう。だからこそボッシュでは従業員のキャリアをサポートし、適切な専門能力の開発機会を提供することが重要だと考えています。ボッシュではすでに、独自の教育プログラムである AI アカデミーを通じて世界で 6 万 5,000 人以上の従業員に AI のトレーニングを提供しています。このトレーニングは、全従業員がオンラインで受講できます。また従業員に対して、生成 AI は日常業務における単純で反復作業から解放することで従業員をサポートできる、という利点も説明しています。」

日本におけるボッシュの AI の取り組み：

研修から、生成 AI ツールの提供、従業員向けイベントまで

ボッシュでは、日本でも AI の重要性を認識しており、昨年より AI に関する研修や施策に力を入れています。主な取り組み事例は以下の通りです。

AI 研修

AI アカデミーで提供されている研修の一部は、日本でも日本語で提供しています。さらに生成 AI の使い方講座やプロンプトについて学ぶ勉強会など、気軽に AI について学べる学びの機会も提供しています。

生成 AI ツール「AskBosch」

社内向けの生成 AI ツール「AskBosch」は日本を含めた世界のボッシュで 2023 年末から提供開始し、日常的な業務における AI 活用を促進しています。AskBosch では、インターネット上の入手可能なデータにアクセスでき、外部に情報流出することなく、文章の要約や翻訳、テキストや画像生成、データ分析などの用途に利用できます。2025 年、国内における AskBosch の平均月間アクセス数は 5 万回以上を目標としています。

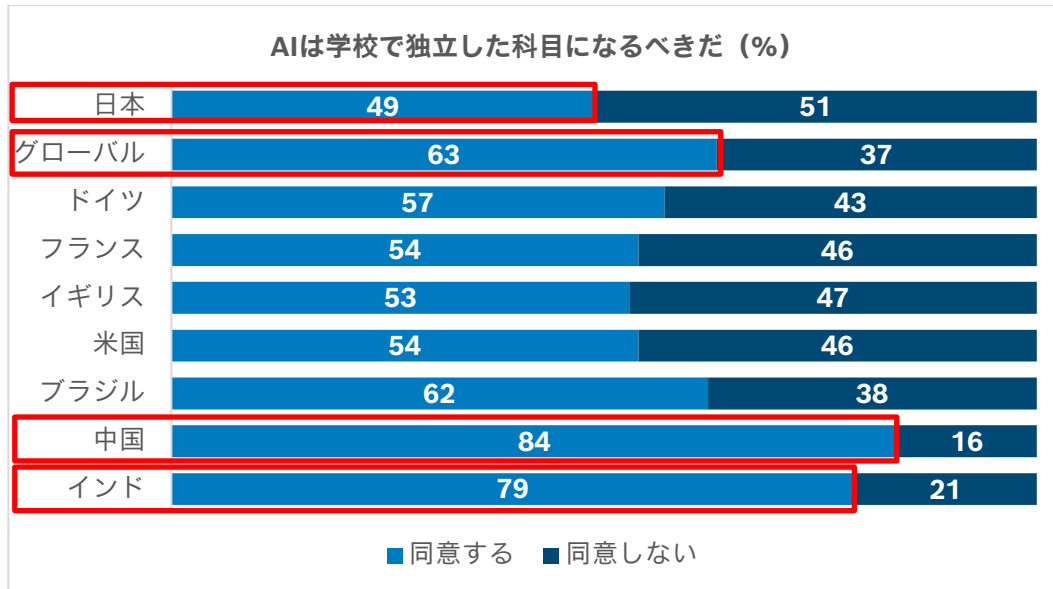
従業員向けイベント「Bosch Japan AI Day」

従業員が社内外の AI の取り組みについて学ぶための従業員向けイベント「Bosch Japan AI Day」を 2024 年から開催しています。社内のみならずボッシュ以外の企業も招致し、AI を活用した事例やソリューションを紹介するイベントです。基調講演では、外部ゲストを招いて AI に関する取り組みや考え方について紹介したほか、展示エリアでは社内外の各チームが AI を活用した業務改善ツールや工場での AI 活用事例を従業員に紹介しました。本イベントは、社内外の事例を学ぶことで、従業員に AI を身近なものに感じてもらい、AI に関する知識の底上げや積極的な AI 活用を目的としたもので、2025 年も開催を予定しています。

その他、本調査で明らかになったその他の調査結果は、以下の通りです。

5. グローバルの 6 割以上、日本の半数「AI は学校で独立した科目になるべき」

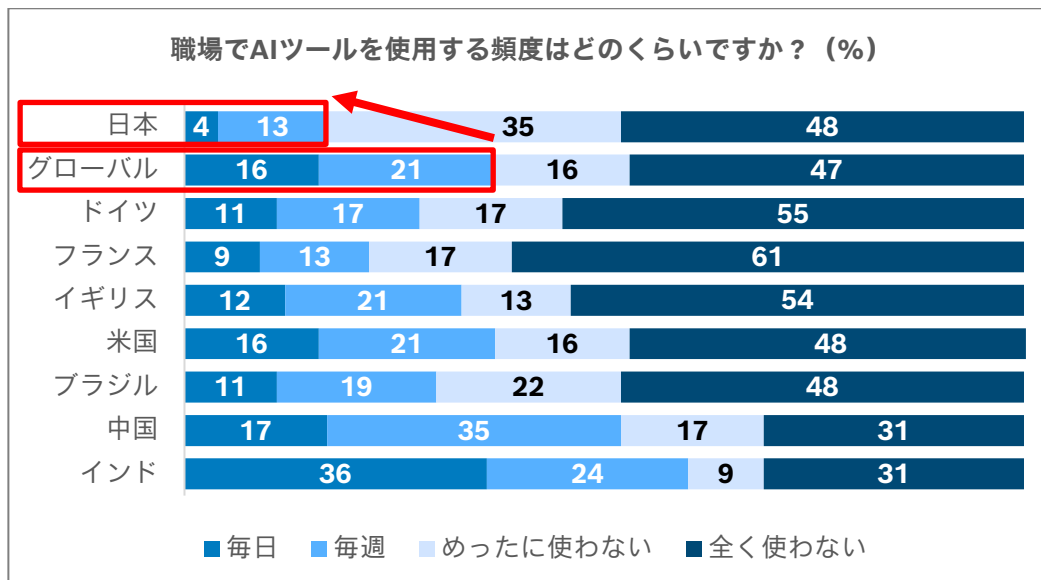
グローバル調査の結果では、**6 割以上（63%）の人が、学校で AI を独立した科目として教えることを歓迎すると回答しました。日本では、約半数（49%）がその意見を支持しています。**また中国（84%）やインド（79%）での支持者は約 8 割におよんでいます。「AI スキルの重要性」を認識している中国とインドは、**AI の将来性を鑑みて、将来必要となるスキルとして、早期における AI 教育の重要性を認識している結果となりました。**



6. グローバルでは半数以上が職場で AI の使用経験あり

「毎日/毎週」：インド (60%)、中国 (52%) は突出、日本はわずか 17%

職場における AI 使用頻度についての質問では、グローバル調査 (53%) でも、日本 (52%) でも、すでに約 2 人に 1 人が職場で AI を使用した経験があると回答しました。しかし「毎日」「毎週」使用すると回答した人に焦点を当てると、グローバルでは 37%、日本ではわずか 17%という結果でした。グローバル平均から 20 ポイントの差をつけ、日本が職場における AI の使用頻度が最も低い結果となりました。



日本の調査概要

調査方法：インターネット調査

実施対象：1,030 人（全国の 18 歳～69 歳の男女）

調査期間：2024 年 12 月 6 日～8 日

回答者数：1. 選択肢のテクノロジーを知っている 1009 人、2 および 6. 有職者 798 人、3 および 4. 職場で AI ツールを少しでも使う有職者 417 人、5. 全員

グローバルの調査概要

2024 年秋、Bosch Tech Compass 用に、Gesellschaft für Innovative Marktforschung mbH (GIM) が 7 か国、18 歳以上の 1 万 1,000 人以上を対象に実施しました。ドイツ、フランス、イギリスではそれぞれ 1,000 人、ブラジル、中国、インド、米国ではそれぞれ 2,000 人が参加しました。

報道関係対応窓口：

古市、浄土寺

電話：045-605-3010

日本のボッシュ・グループ概要

日本のボッシュはボッシュ㈱、ボッシュ・レックスロス㈱、その他の関係会社から構成されます。ボッシュ㈱は自動車用パーツの開発、製造、販売そしてサービスの業務を展開し、また自動車用補修パーツや電動工具も取り扱っています。ボッシュ・レックスロスは油圧機器事業、FA モジュールコンポーネントやその他のシステムの開発と生産を行い、日本の産業機器技術に貢献しています。2024 年の日本のボッシュ・グループの第三者連結売上高は約 4,280 億円で、従業員数は約 6,300 人です。

世界のボッシュ・グループ概要

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーです。2024 年の従業員数は約 41 万 8,000 人（2024 年 12 月 31 日現在）、売上高は 903 億ユーロ（約 14.8 兆円*）を計上しています。ボッシュはモビリティ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・ビルディングテクノロジーの 4 つの事業領域を展開しています。事業を通じて、自動化、電動化、デジタライゼーション、ネットワーク化、持続可能性の取り組みといった普遍的なトレンド形成に、自社のテクノロジーを活用することを目指しています。こうした観点から、ボッシュは地域や業界の壁を超えた幅広い事業展開により、革新性と堅牢性を高めています。ボッシュはセンサー技術、ソフトウェア、サービスにおける実績ある専門知識を活かし、さまざまな分野にまたがるソリューションをワンストップでお客様に提供しています。また、ネットワーク化と AI に関する専門知識を応用して、ユーザーフレンドリーで持続可能な製品を開発・製造しています。ボッシュはコーポレートスローガンである「Invented for life」なテクノロジーによって、人々の生活の質の向上と天然資源の保護に貢献したいと考えています。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbH とその子会社 490 社、世界約 60 カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売／サービスパートナーを含むグローバルな製造・エンジニアリング・販売ネットワークは世界中のほぼすべての国々を網羅しています。ボッシュの未来の成長のための基盤は技術革新力であり、世界 136 の拠点で約 8 万 7,000 人の従業員が研究開発に携わっています。

*2024 年の為替平均レート、1 ユーロ = 163.8354 円で計算

さらに詳しい情報は 以下を参照してください。

www.bosch.com ボッシュ・グローバル・ウェブサイト（英語）

www.bosch-press.com ボッシュ・メディア・サービス（英語）

<https://twitter.com/BoschPresse> ボッシュ・メディア 公式 X（ドイツ語）

www.bosch.co.jp/ ボッシュ・ジャパン 公式ウェブサイト（日本語）

<https://twitter.com/BoschJapan> ボッシュ・ジャパン 公式 X（日本語）

<https://www.facebook.com/bosch.co.jp> ボッシュ・ジャパン 公式フェイスブック（日本語）

<https://www.youtube.com/boschjp> ボッシュ・ジャパン 公式YouTube（日本語）

<https://www.linkedin.com/company/bosch-japan/> ボッシュ・ジャパン 公式LinkedIn（日本語）